

# 和歌山縣報

第千四十號

明治四十四年一月二十四日

## ○縣令

○和歌山縣令第三號

明治四十一年一和歌山縣立農林學校別科規則中左ノ通改正ス

明治四十四年一月二十四日

和歌山縣知事 川上親晴

第七條 入學ヲ許スヘキ者ハ左記各號ノ資格ヲ具備スル者ニ就キ學力經歷ヲ檢定シテ之ヲ定ム

一 養蠶業ニ經驗アル者

二 年齡十七歲以上ノ男子ニシテ品行方正身體健全ナル者

三 高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

○和歌山縣令第四號

原動機取締規則左ノ通相定ム

明治四十四年一月二十四日

和歌山縣知事 川上親晴

原動機取締規則

第一條 本則ニ於テ原動機ト稱スルハ陸上ニ設置スル汽機、汽機、石油機關、瓦斯機關ヲ謂フ  
他ノ法令ノ規定ニ依リ特別ノ取締ヲ受タル汽機、汽機其ノ他官州ノ原動機及ヒ最大汽壓五磅以

今中  
月三、奉  
止話人

下ノ派鑑ニ對シテハ本則ノ規定ヲ適用セス

第二條 原動機ヲ設置セムトスル者ハ左記各號ノ事項ヲ詳具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ第二號乃至第九號第十一號乃至第十五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 住所、氏名、年齢、法人ニ在テハ事務所々在地、名稱、代表者ノ氏名

二 事業ノ種類

三 原動機ノ種類並ニ其ノ個數

四 工場ノ位置

但郡市町村大字地番ヲ明記スルヲ要ス

五 工場ノ構造

但仕様書並ニ五十分一ノ平面圖、側面圖、断面圖ノ添付ヲ要ス

六 敷地ノ地質、坪數

但地形建物ノ配置並ニ其ノ坪數ヲ記載シタル平面圖ノ添付ヲ要ス

七 人家ト原動機至トノ距離

但敷地ノ周圍三十間以内ノ地形他ノ建造物等ノ位置人家ト原動機至トノ距離ヲ見得ヘキ平面圖ノ添付ヲ要ス

八 非常口ノ構造、設備

但非常口ノ位置、機械類、箱、煙突等ノ位置並ニ其ノ距離ヲ示シタル平面圖ノ添付ヲ要ス

九 有害瓦斯ヲ發散シタハ汚水、汚物ヲ生スルノ處アルモノハ其ノ排除方法

十 原動機取扱主任者ノ原籍、身分、氏名、年齢及其ノ履歷書

十一 原動機ノ構造

但明細書ノ添付ヲ要ス

甲 汽鐘ニ在テハ

イ 汽鐘ノ種類及ヒ個數

「コルモツシユ」「ランカシヤ」直立鐘或ハ管成鐘等ノ類

ロ 蒸鐘ノ寸法

鐘胴長經何呎何吋、儀筒長經何呎何吋、水火管長經何呎何吋何本等

ハ 鐘板ノ種類及ヒ厚サ

鐵質何々、銅板、鏡板、爐板、火管厚サ何吋

ニ 支柱並ニ鉄ノ種類、寸法及ヒ心距

支柱鐵質「ガゼット」支柱長幅何呎何吋心距何吋何個「メイン」支柱經何吋心距何吋何

本

ホ 鉄鐵質、各板接合ノ種類、列數

經何吋心、距何吋

ヘ 最近水壓試驗ノ年月日及其ノ成績

每平方吋上何磅何年何月何日

ト 最大蒸壓並ニ常用蒸壓

每平方吋上何磅

チ 傳熱ノ面積

何平方呎

火床ノ面積

幅何呎何時長何呎何時何平方呎

安全瓣ノ種類、寸法及個數

天秤、發條、直錘式等瓣經何時何個

給水ノ裝置

水槽又ハ井戸、河海等ノ別及ヒ給水ノ方法

製作所名及製作年月並ニ履歴

何工場又ハ何誰ノ製作何年何月何誰ヨリ讓受ケ何年何月何工場ニ於テ修繕等

燃料ノ種類並ニ一時間ノ消費高

石炭又ハ薪等ノ別及ヒ其ノ數量

乙 蒸機ニ在テハ

イ 汽機ノ種類及ヒ個數

直立式、横置式、單式、聯成式等何個

ロ 汽筒ノ寸方

内經何時

ハ 衝程ノ寸法

長何呎

ニ 回轉數

一分時間何回

ホ 實馬力

ヘ 公稱馬力

ト 調整器ノ種類

チ 「ボールガバナナー」「シャフトガバナナー」等ノ別

リ 冷縮器ノ種類

ロ 表面又ハ注射ノ別

ヲ 冷縮水供給及排水ノ方法

ヅ 製作所名及製作年月並ニ履歴

丙 石油機關及ヒ瓦斯機關ニ在テハ

イ 機關ノ種類及個數

ロ 汽筒ノ寸法

ハ 衝程ノ寸法

ニ 回轉數及ヒ爆發數

ホ 實馬力

ヘ 公稱馬力

ト 調整器ノ種類

チ 石油又ハ瓦斯槽ノ構造

ヲ 排氣消音ノ方法并ニ排氣箱ノ形狀寸法及ヒ個數

機關ヨリ排氣箱何個ヲ通過スル等直徑何呎高何呎何個

石油、瓦斯供給ノ方法

石油、瓦斯十時間内ノ消費高

製作所名及ヒ製作ノ年月並履歴

十二 煙突ノ種類、築造方法

但煉瓦造ニ在テハ「モルタル」ノ調合方法、鐵板製ニ在テハ其ノ厚サ接合ノ方法、支線ノ太サ條數及其ノ支持ノ方法等並ニ基礎ノ構造仕様書、高サ、形狀、頂部及底部ノ寸法ヲ記シタル圖面ノ添付ヲ要ス

十三 避雷針ノ構造方法

但頭尖ノ形狀、太サ、導線ノ種類太サ、地中板ノ種類大サ及其ノ埋設方法其ノ他頭尖、導線、地中板ノ各接續方法等並ニ圖面ノ添付ヲ要ス

十四 原動機使用ノ時間及一定ノ時期アルモノハ其ノ時期

十五 工事落成期日

許可ヲ得テ設置シタル原動機ノ使用ヲ廢止シタル後再ヒ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ旨當廳

ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第三條 煙突ノ築造ハ左ノ規定ニ據ルヘシ

一 煙突ハ煉瓦又ハ鐵板ニ限ルモノトス

二 煙突ニハ避雷針ヲ裝置スヘシ

三 煙突ノ高サハ六十呎以上トス

四 煙突ノ位置ハ最近人家及流籠ニ對シ其ノ高サノ三分ノ一以上ノ距離ヲ保タシムヘシ  
土地ノ狀況若ハ流籠ノ種類又ハ形狀ニヨリ前項ノ制限ニ拘ハラス特ニ設置ヲ許可スルコトアル  
ヘシ

第四條 火藥又ハ石油ノ貯藏場其ノ他爆發性ノ物品ヲ製造シ又ハ貯藏スル場處其ノ他社寺、學校、  
病院、官公署ノ敷地、公園、御陵墓ノ境界ヲ距ルコト直經六十間以内ノ地ニ在テハ原動機ノ設置  
ヲ許可セサルコトアルヘシ

第五條 原動機設置ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ場合ニ於テ當廳ニ届出ツヘシ

一 基礎工事ノ爲地盤ヲ掘鑿シ杭打ヲ爲ストキ

二 原動機ヲ据付ケムトスルトキ

三 避雷針ヲ取付ケタルトキ(地中板埋設前ナルヲ要ス)

四 全部ノ工事落成シタルトキ

五 原動機取扱主任ヲ變更シタルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テ取扱主任不適任ナリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 原動機ハ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

検査証ハ原動機室内見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ但シ室外ニ設置スルノモノニ在テハ取扱者之ヲ  
携帯スヘシ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル事實ヲ生シタルトキハ五日以内ニ當廳ニ届出第二號第三號ノ場  
合ニ於テハ検査証ヲ返納シ第四號第五號ノ場合ニ於テハ検査証ノ書換ヘ又ハ再下附ヲ請フヘシ  
但第三號ノ場合ニ於テ現在ノ儘使用ヲ繼續セムトスルトキハ讓受渡人若ハ貸借人双方連署ノ上

更ニ検査証ノ下附ヲ請フヘシ

一 第二條第一項第一號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ事業者死亡シタルトキ

二 原動機ヲ撤去シ又ハ其ノ使用ヲ廢止シタルトキ

三 原動機ヲ讓渡シ又ハ貸與シタルトキ

四 家督相續又ハ遺產相續ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキ

五 検査証記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ検査証ヲ亡失毀損シタルトキ

第八條 原動機ハ検査証ニ記載シタル期限及常用氣壓ヲ超過シテ使用スルコトヲ得ス

汽鐘ニハ鎖鑰ノ設ケアル安全瓣一個以上ヲ裝置スヘシ

第十二條 第二項ニ依リ施シタル安全瓣ノ封鎖ハ之ヲ開クコトヲ得ス但止ムヲ得サル事由ニ因リ

之ヲ開キタルトキハ其ノ旨直チニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ更ニ其ノ検査ヲ受クルニ非レハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第九條 原動機ハ三ヶ月内一回以上煙突ハ毎月一回以上掃除ヲ行フヘシ但煙突ノ高さ百呎以上ノ

モノハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ其ノ度數ヲ減スルコトヲ得

前項掃除ノ期日ハ豫メ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十條 原動機ノ検査ハ毎年一回以上之ヲ行フ其ノ期日ハ豫メ之ヲ通知ス但臨時検査ノ場合ニ於

テハ期日ノ通知ヲ爲ササルコトアルヘシ

第十一條 検査ノ通知ヲ受ケタルトキハ汽鐘ニ在テハ人孔其ノ他ノ諸孔ヲ取外シ爐格、火橋ヲ取

出シ罐体ヲ冷却セシメ煙道、煙突其ノ他罐ノ内外ヲ掃除シ汽機ニ在テハ汽籠蓋、滑輪蓋ヲ取外シ

其ノ他ノ他原動機ニ在テハ検査上必要ナル部分ヲ取外シ其ノ準備ヲ整ヘ置クヘシ

原動機ヲ検査シ及第十二條第二項ニ依リ安全瓣ノ封鎖ヲ行フニ當リテハ事業者及ヒ原動機取扱主任之ニ立會スヘシ

第十二條 検査上必要アルトキハ水壓試験又ハ罐板穿孔其ノ他必要ノ措置ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル費用其ノ他ノ損害ハ事業者ノ負担トス

原動機ノ安全瓣ハ検査ノ後検査員ヲシテ之ヲ封鎖セシム

第十三條 原動機、煙突又ハ建造物ニ設損ヲ生シ若ハ異狀アリト認メタルトキハ其ノ狀況ヲ具シ直ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十四條 原動機又ハ煙突ノ毀損若ハ煤煙粉末又ハ有害瓦斯ノ飛散若ハ震動騒響其他ノ事由ニ因リ危害ヲ生シ又ハ生スルノ虞アリト認ムルトキハ除害ノ裝置ヲ命シ又ハ工場ノ増築、改築、變更、移轉ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止シ若ハ禁止スルコトアルヘシ

所轄警察官署ハ原動機、煙突又ハ建造物ノ狀況危險ノ虞アリト認ムルトキハ一時其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 原動機、煙突又ハ建造物ヲ修繕セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ圖面ヲ添へ着手前五日マテニ當廳ニ届出ツヘシ

- 一 修繕ノ事由
- 二 修繕ノ部位
- 三 修繕ノ方法

前項ノ工事落成シタルトキハ其ノ旨當廳ニ届出ツヘシ

第十六條 本則ニ依リ當廳ニ差出ス願届ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ原動機設置ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘキ

一 正當ノ事由ナクシテ許可ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ工事ニ着手セス若ハ工事落成期日經過後六十日以内ニ落成セス又ハ工事落成後六十日以内ニ事業ヲ開始セサルトキ

二 公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ

三 原動機、煙突又ハ建造物ノ改築、修繕其ノ他必要ノ設備ヲ命セラレ之ニ従ハサルトキ

四 正當ノ事由ナクシテ休業六ヶ月以上ニ及ヒタルトキ

五 第十一條第一項ニ依ル受檢ノ準備ヲ怠リタルトキ

六 許可又ハ檢査ヲ受タルニ際シ不正ノ手段ヲ用ヒタルトキ

七 前各號ノ外本則又ハ本則ニ基キテ發スル命令ヲ遵守セサルトキ

第十八條 第二條第一項、第五條第一項、第六條乃至第九條、第十一條、第十三條、第十五條ノ規定ニ違背シ又ハ第五條第二項、第十四條、第十七條ノ處分ニ従ハス若ハ其ノ處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十九條 代理人、戶主、家族、雇人其ノ他從業者ノ事業上ニ關スル行爲ハ自己ノ指揮ニ出テザル

モノト雖事業者其ノ責ニ任ス

第二十條 事業者カ未成年者又ハ無能力者ナルトキハ本則ニ依リ適用スヘキ所謂ハ之ヲ法定代理人ニ科ス但成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ在テハ此ノ限ニ在ラス

法人ニ適用スヘキ所罰ハ之ヲ法人ノ代表者ニ科ス

第二十一條 汽壓十磅以上ヲ使用スル蒸鐘ニ對シテハ第二條乃至第十七條ノ規定ヲ準用シ併セテ

第十八條乃至第二十條ノ規定ヲ適用ス

陸上ニ於ケル可搬ノ滾罐瀝機、石油機關、瓦斯機關ハ本則ノ規定ヲ準用ス

附 則

第二十二條 明治二十七年六月 和歌山縣令第三十二號滾罐瀝機取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢

止ス

本則施行前既ニ許可ヲ受ケタル原動機ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス

### ○ 告 示

○和歌山縣告示第十九號

土地收用法第九條ニ依リ瓦斯管理設備ノ爲左記土地ニ立入測量ヲ爲スコトヲ和歌山瓦斯株式會社設立發起人南方常楠外十八名總代和歌山市本町五丁目平松義孝ニ許可セリ

明治四十四年一月廿四日

和歌山縣知事 川 上 親 晴

一、和歌山市

○和歌山縣告示第二十號

左記ノ種牡牛ハ其ノ所有者異動ニ付證明書書換下付シタリ

明治四十四年一月二十四日

和歌山縣知事 川 上 親 晴

種牡牛證明書書

種

類

年 齡

毛 色

高 々

舊所有者住所氏名

所有者住所氏名

換下付年月日

明治四十四年一月十八日

ブラウンスキ

二

歳

黒毛 四尺一寸

西牟婁郡上秋津村二

西牟婁郡岩田村大字 岩田 山本榮次郎

全 一月十八日 全

四十二年 全 四尺 二寸

全三軒村大字三軒 小川長七

全栗柄川村大字大船 寺本四郎太夫

○和歌山縣告示第二十一號

東牟婁郡色川村大字大野二千二百二十八番地 奈良縣平民

開業產婆

西久保 ひめ

右ノ者今般婚姻並名前誤謬ノ旨ヲ以テ訂正願出ニ依リ左記ノ通本日和歌山縣產婆名簿ヲ訂正ス

明治四十四年一月二十四日

和歌山縣知事

川上 親晴

東牟婁郡色川村大字大野二千二百二十八番地 三重縣士族

下野 ひ光

○和歌山縣告示第二十二號

和歌山市新中通一丁目二番地

開業產婆

木村 ツル

右ノ者今般婚姻ノ旨ヲ以テ訂正願出ニ依リ左記ノ通本日和歌山縣產婆名簿ヲ訂正ス

明治四十四年一月廿四日

和歌山縣知事

川上 親晴

開業地前全

磯部 ツル

○和歌山縣告示第二十三號

海草郡加太町大字加太千二百卅六番地

開業產婆

石谷 こと

右ノ者產婆規則第十條ニ依リ明治四十四年一月十五日ヨリ向フ壹ケ年間其營業ヲ停止セリ

明治四十四年一月廿四日

和歌山縣知事

川上 親晴

○和歌山縣告示第二十四號

左記ノ者頭書ノ番號ヲ以テ本日和歌山縣產婆名簿ニ登錄ス

明治四十四年一月二十四日

和歌山縣知事

川上 親晴

有田郡御靈村大字西丹生圖五百三番地

和歌山縣平民

川口 キミ

明治二十年二月生

第七四一號

○和歌山縣告示第二十五號

左記ノ者死亡ノ旨ヲ以テ取消願出ニ依リ本日和歌山縣產婆名簿ノ登錄ヲ取消ス

明治四十四年一月二十四日

和歌山縣知事

川上 親晴

伊都郡橋本町大字古佐田百三十二番地

開業產婆

河内 チカ

同郡同町大字市脇四百五十三番地

同郡學文路村大字學文路五百二十八番地  
開業産婆 岩坪シカ  
澤ツルノ

○和歌山縣告示第二十六號

京都府天田郡細見村字中出ニ於テ本月八日和種牡牛一頭氣腫疽ニ罹リ翌日斃死セシ旨通知アリタ  
明治四十四年一月廿四日  
和歌山縣知事 川上親晴

○辭令

○明治四十四年一月四日

和歌山縣縣誌編纂委員長ヲ命ス  
和歌山縣縣誌編纂副委員長ヲ命ス

(各通)

- |      |        |      |        |
|------|--------|------|--------|
| 事務官  | 相良     | 事務官  | 相良     |
| 屬    | 齊藤守園   | 屬    | 田村和夫   |
| 屬    | 山東顯一郎  | 屬    | 山東顯一郎  |
| 視學   | 須藤丑彦   | 視學   | 須藤丑彦   |
| 視學   | 浦和彦七   | 視學   | 浦和彦七   |
| 事務官補 | 佐々木米三郎 | 事務官補 | 佐々木米三郎 |

和歌山縣縣誌編纂委員ヲ命ス

(各通)

事務官補

五十嵐 吉三

技師

和田 匡夫

風

佐々野 播雄

屬

谷口 秀峰

内村 義誠

和歌山縣誌編纂評議員ヲ命ス

和歌山縣縣誌編纂事務ヲ囑託ス

月手當貳拾五圓ヲ給ス

○明治四十四年一月十六日

師範學校教諭

春日 賢一

明治四十四年一月ヨリ開設スヘキ小學校教員檢定受験者豫備講習會講師ヲ命ス

師範學校長

古市利三郎

明治四十四年一月ヨリ開設スヘキ小學校教員檢定受験者豫備講習會監督兼講師ヲ命ス

田邊中學校助教諭心得

野田芳三郎

月俸貳拾四圓ヲ給ス

○明治四十四年一月十七日

願ニ依リ職務ヲ免ス

有田郡箕島町立實業學校助教諭心得

井上 信一

○明治四十四年一月十八日

愛媛縣へ出向ヲ命ス

和歌山高等女學校教諭

福田竹太郎

有田郡箕島町立實業學校助教諭心得ヲ命ス

石井 賢造

月俸拾六圓ヲ給ス

○明治四十四年一月十九日

和歌山縣立和歌山中學校教諭ニ任ス

佐賀縣立佐賀中學校教諭

三宅永之助

六級俸ヲ給ス

○明治四十四年一月二十日

御用濟ニ付解雇

雇

矢田佐一郎

和歌山縣物産陳列場書記ヲ命ス

矢田佐一郎

月俸拾參圓ヲ給ス

和歌山縣物産陳列場書記ヲ命ス

御前清十郎

月俸拾壹圓ヲ給ス

### ○町村吏員ノ異動

○明治四十四年一月廿四日認可

有田郡保田村助役

佐原紋右衛門

有田郡箕島町有給町長

佐山市郎

有田郡箕島町有給助役

石井成一

### ○正課

○明治四十三年十月二十一日縣報訓令第四十六號別冊統計臺帳様式中

一、臺帳目次並報告期限學事科第六表名中市町村立ノ下「私立」ヲ脫ス

一、臺帳整理及報告事務取扱例第二項中「名稱欄」ヨリ「但シ」ニ至ル六十四字ヲ削ル

一、戸口科第一戸數及人口表樣式中本籍ノ部「戸數」ハ「戶主」ノ誤

一、學事科第一學事取調條項表注意事項中左ノ一項ヲ脱ス

五 前各項ノ外郡市役所ニ在テハ下記條項ヲ明治三十四年二月文部省訓令第一號ニ依リ調査ノ上

本表報告ニ添付スヘシ

各種學校 學校衛生 郡市町村會 教育會

一、同第四市町村立私立小學校學級及兒童表樣式中「學校數」ハ「學級數」ノ誤

一、農事科第三食用農產物表樣式中蒟蒻芋及同第四特用農產物表樣式中人參、漆樹作付段別及平均一段歩ニ付收穫ノ欄「」ヲ脱ス尙第四特用農產物表樣式中大字別欄作付段別植ノ單位「段」ハ

「本」ノ誤

一、同第一一茶表注意第三項中「覆ヲ掛ケサル」ハ「覆ヲ掛ケサル」ノ誤

一、同第一四家禽表注意第三項中雞ハ鷄ノ誤

一、水産科第二難破漁船表注意第三項中「流出」ハ「流失」ノ誤

一、雜科第六表名「馬車瓦斯鐵道」ハ「電氣鐵道會社」ノ誤

右

○觀象

自一月十六日至一月十七日氣象

(和歌山測候所觀測)

種目	一月十六日	一月十七日	一月十八日	一月十九日	一月二十日	一月廿一日
平均氣壓	七五七耗八 七六六耗四	七六一耗七 七六七耗六	七六一耗七 七六六耗〇	七六八耗三 七六三耗二	七六八耗六 七六三耗七	七五九耗八 七六四耗八
平均氣溫	四度四 三度二	四度一 二度八	四度二 三度八	五度〇 四度二	五度〇 五度四	一〇度六 四度七
最高氣溫	八度〇 七度八	六度七 八度七	六度三 七度九	八度六 七度六	八度七 一〇度七	一七度四 一七度〇
最低氣溫	二度四 〇度四	冰点下一度三 二度一	〇度一 一度五	二度六 〇度八	二度二 〇度八	冰点下一度二 二度七
最多風向	北西	西南西 北西	西北西 北西	東北東 北北	北北	北西 南西
平均風力	六米七 四米八	三米八 二米四	六米五 二米八	三米三 二米八	二米四 三米四	五米五 三米〇
天氣	半晴 晴	晴曇 曇	曇 曇	半晴 曇	晴后曇 曇	晴雨 晴
降水量	三耗〇	〇耗〇	〇耗〇	〇耗〇	〇耗〇	三耗七 三耗九
記事現象	曉間及少刻微雨曉 間南方ニ雷響午后 時々四方ノ強風吹 曉間結霜	曉間微雪	曉間微雪	曉間結霜并月象、 月環映又正午前後 雨片環映又正午前後 雨	曉間結霜	終日降雨午前十時 夕刻迄南寄ノ 強風吹夕刻ヨリ 午後八時 三十六分十二秒 微

明治四十四年一月二十三日印刷

(每月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日發行)

和歌山縣知事官房

印刷所 和歌山市北休買町六番地 宗七